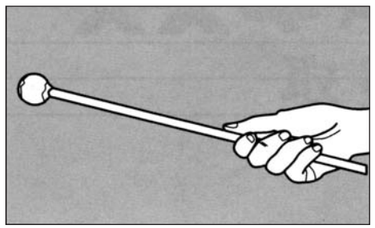
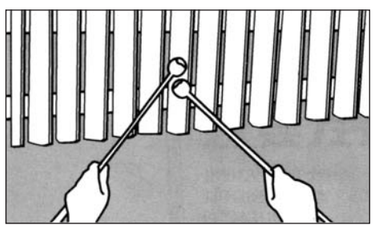
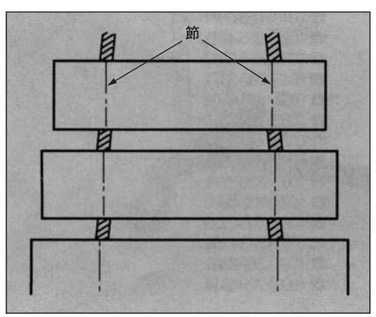
## マレットの持ち方



柄の端から約1/3のあたりを親指と人差指の第2関節の間に挟み、他の指は軽く柄にそえます。
左右とも同じように持ちます。腕を水平にした時、マレットが音板から12～15cmの高さになるのが普通で、この位置から打ちおろします。



腕の角度はお互いに60°～90°くらいになるようにします。




音板を打つときは、手首をしなやかにし、マレットを垂直に上下に動かすことが大切です。
音板はどの音板でも図のように「節」と呼ばれる音の出ない点が二つあります。音板を支えている紐はこの位置にあります。「節」の近くは良い音が出ません。最良の音が出るように音板の中央を打ってください。

マレットは大きくて軟質のものはまろやかな低い音。軽くて硬いものは澄んだ高音がでますのでマレットの選択は非常に重要です。

## 仕様

### ■立奏木琴

| | SX-370L・SX-370H（ソプラノ・アルト） | AX-420L・AX-420H（アルト・テナー） | TX-420L・TX-420H（テナー・バス） | BX-250L・BX-250H（バス） |
|---|---|---|---|---|
| 音域 | $c^2$～$c^5$ 37鍵（3オクターブ） | $c^1$～$f^4$ 42鍵（3・1/2オクターブ） | c～$f^3$ 42鍵（3・1/2オクターブ） | c～$c^2$ 25鍵（2オクターブ） |
| 音板 | 高級ウッド材 | 高級ウッド材 | 高級ウッド材 | 高級ウッド材 |
| 共鳴管 | シルバースチール | シルバースチール | アルミ | アルミ |
| 寸法（幅×奥行×高さ） | 113×53.4×60cm（SX-370L）/80cm（SX-370H） | 130×65×61cm（AX-420L）/81cm（AX-420H） | 138×78×72cm（TX-420L）/82cm（TX-420H） | 108×90×73cm（BX-250L）/85cm（BX-250H） |
| 重さ | 18kg | 22kg | 35kg | 30kg |
| 付属品 | カバー・マレット付（SP-521） | カバー・マレット付（SP-541） | カバー・マレット付（SP-531） | カバー・マレット付（SP-523・SP-532） |

### ■立奏鉄琴

| | AM-370L・AM-370H（アルト） | | |
|---|---|---|---|
| 音域 | $c^1$～$c^4$ 37鍵（3オクターブ） | 寸法（幅×奥行×高さ） | 115×65×61cm（AM-370L）/81cm（AM-370H） |
| 音板 | 高力アルミ合金 | 重さ | 35kg |
| 共鳴管 | シルバースチール | 付属品 | カバー・マレット付（SP-531） |

株式会社 鈴木楽器製作所
〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-12 ☎(053) 461-2325

http://www.suzuki-music.co.jp/
インターネットでスズキホームページをご覧頂けます。

5105-5C-APR-MM-110-B
00457-20011

SUZUKI

# 立奏木琴・立奏鉄琴 取扱説明書

**対応機種：SX-370L・SX-370H / AX-420L・AX-420H / TX-420L・TX-420H**
**BX-250L・ BX-250H / AM-370L・AM-370H**

この度はスズキ立奏木琴・立奏鉄琴をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本製品を末永く、そして安全に正しく組み立て・ご使用いただくため、この取扱説明書をよくお読みください。お読みになった取扱説明書はなくさないよう、大切に保管してください。

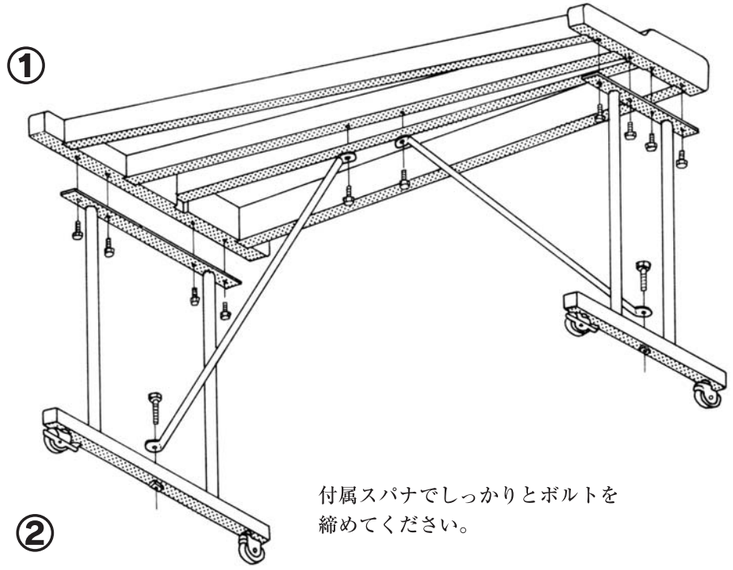
## ⚠ 使用上の注意

**安全に末永くご使用いただくため、以下の指示を必ずお守りください。**

- 音板の中央部は調律されて薄くなっています。音板の上に乗ったり、遊んだりしないでください。また、マレット以外の重いもの、角ばったもの、金属などでたたかないでください。音板をいためる原因になります。
- 音板がよごれたら乾いたやわらかい布で拭いてください。油類（シンナー・ベンジン等）は使わないでください。音板表面をいためる原因になります。
- 移動する時は、静かに運ぶように心掛けてください。大型のキャスター付ですが、障害物の有る所は持ち上げるようにしてください。

# 立奏木琴の組み立て方

## SX-370L・SX-370H/AX-420L・AX-420H TX-420L・TX-420Hの場合

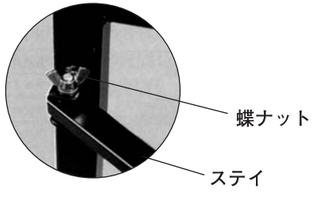



付属スパナでしっかりとボルトを締めてください。

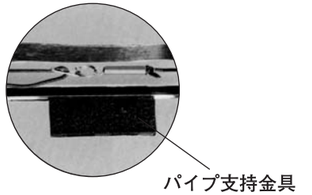
①でできたスタンドに共鳴パイプを取付けます。
スタンド下部より、高音側を深く差し込み、次に低音側を引っ張るようにしてパイプ支持金具に掛けてください。
パイプ支持金具の溝は階段状になっています。
室温によりパイプを上下させ（室温が高いときはパイプを上げる）、一番共鳴の良い位置をお選びください。

## BX-250L・BX-250Hの場合

本体を横に立て、脚を開いてください。




次にステイを伸ばし、脚と連結します。連結する時は、蝶ナットをしっかり締め付けてください。




共鳴パイプを取付けます。必ず先に高音側を深く差込み次に低音側へ引張るようにしてパイプ支持金具に掛けてください。パイプ支持金具の溝は階段状になっています。室温によりパイプを上下させ（室温が高い時はパイプを上げる）て一番共鳴の良い位置をお選びください。

これで組立完了です。

# 立奏鉄琴の組み立て方

## AM-370L・AM-370Hの場合

① 本体の低音側を床につけて立てます。

② 両側の脚を開きⒶを取り付けます。
・ペダルが奏者側にくるようにⒶをセットします。
・まず、両側の脚の穴からネジを通しⒶのネジに軽く止めてください。

③ Ⓑを取り付けます。
・Ⓑの一方の穴と低音側脚の穴にネジを通し、軽く止めてください。
・本体の裏中央部のネジを一度取りはずし、Ⓑのもう一方の端を取り付けます。

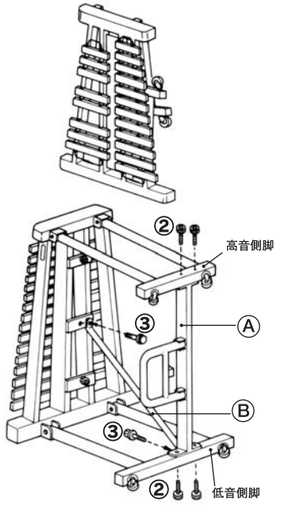
④ ネジをしっかりと締め付けます。
・付属の六角レンチでⒶ・Ⓑ・6ヶ所のネジを締め付けてください。

⑤ 楽器を起こします。

⑥ Ⓒをペダルに取り付けます。
・ペダルのジョイント部に付いているネジを一度取りはずします。
・図Ⅰのようにネジは角穴の方から差し込み蝶ナットを締め付けてください。

⑦ Ⓒをダンパーのジョイント金具に連結します。
・図Ⅱのようにネジは角穴の方から差し込んで締め付けます。

⑧ 共鳴パイプを取り付けます。
・本体の下から先ず高音側をハンガー上段に載せてから低音側もハンガーに載せ、高音側は下段に落としてください。

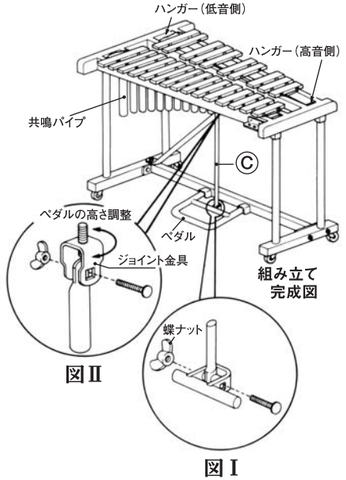



## ■ 調整方法

（新品時にはそのままご使用頂けるよう調整されています。）

**・ペダルの高さの調整**
図Ⅱのネジを一度取りはずしジョイント金具を回転させます。ジョイント金具の下のナットは調整後、必ず締め付けてください。

**・ダンパー効果の調整**
本体裏の左右2ヶ所にある調節ツマミを回転させます。低音域と高音域のバランスをとるように必ず2ヶ所のツマミ調整を行なってください。




図Ⅱ

図Ⅰ